



No.99
2023. 3.3

3年ぶり対面開催・令和4年度 りんご研究所成果 情報発表会

新型コロナウイルスの影響で、一昨年と昨年は対面での実施が叶わなかった試験成果・情報発表会を、今年は以前同様に津軽と県南の2か所で開催できました。津軽は2月14日に藤崎町文化センターで開催、参加者は例年並みの約二五〇名でした。県南は2月16日に南部町立市民ホールで開催、参加者約七〇名でした。両会場とも満員御礼ではありませんが、非常に盛況でした。



津軽会場の様子



講演は津軽と県南とも次の4題を発表しました。
①無袋果で長期貯蔵可能なリンゴ品種「秋陽」の特性、②リンゴ「ぐんま名月」におけるカラーチャートを取り入れた収穫方法、③ブルーベリー害虫ミズキカタカイガラムシの生態と防除法、④令和5年りんご病害虫防除暦の改正点。

また、会場ロビーにおいて、講演で紹介できなかった成果や情報のポスターを展示しました。なお津軽会場では、様々なリンゴ品種の展示と、メーカーの協力による作業軽労化に役立つ電動農器具の展示を併せて行いました。



県南会場の様子



津軽会場
令和4年度(第13回)
りんご研究所
試験成果
情報発表会
令和5年 2月14日(火) 13:30~16:00
藤崎町文化センター大ホール

県南会場
令和4年度(第13回)
りんご研究所
試験成果
情報発表会
令和5年 2月16日(木) 13:30~16:00
南部町立市民ホール「楽楽ホール」

趣向を凝らしたポスター



北日本病害虫研究会賞受賞 病害虫管理部

害虫管理部の研究成果である「DMI剤耐性リンゴ黒星病に対する防除体系の確立」が、第15回北日本病害虫研究会賞の防除技術開発技術普及部門賞に選出され、2月21日に札幌市で開催された当研究会総会において表彰されました。赤平部長が代表して賞状を受け取り、津軽弁と黒星病大発生のお告げとなったエピソードを交えた語りで会場に笑いを誘いながら、受賞の喜びと感謝をコメントしました。受賞おめでとうございます(YH)。

獣との仁義なき戦いⅠ

アライグマ編 (五戸)

昨年の収穫期、手塩にかけて育てたブドウを何者かに食べられて試験に影響が出ました。犯人を特定するために赤外線カメラを設置したところ、犯人はタヌキとアライグマ(写真1、2)であることが判明しました。その後映像からアライグマがよりやっかいなことがわかってきました。アライグマはタヌキと比較して木に登る能力が高く(写真2)、木に登り器用に前足で果実袋をきれいに破いて果実を食べていました。しかもちようど食べ頃頃に襲ってきます(味見だけして帰ることもある)。絶対に許しません。

そこで、有効と考えられる対策を検討したので紹介します。

対策とは、ブドウの幹にトタンを巻くというもので、この方法は三重県農業研究所で効果試験が行われたものです(引用)。県南果樹部では写真のように高さ約1mのトタンを設置し(写真3)、設置後数週間モニタリングしたところ、トタンに手をかけたものの登ることができずに諦めて帰って行くアライグマが写っていました(写真4)。

よって、この方法はアライグマの登はん及び食害を一定程度抑制可能であることがわかりました。
(県南果樹部 佐々木 試験担当)

(引用) 平成21年度「関東東海北陸農業」研究成果情報:
〈登はん能力からみたアライグマとタヌキのブドウ果実食害防止対策〉/三重農研>



写真2



写真1



写真4



写真3

獣との仁義なき戦いⅡ

ネズミ編 (黒石)

りんご研究所黒石のほ場では、昨年、金網で保護して地中に埋めておいた苗木の多くがネズミの食害に遭うという非常事態が発生しました。そこに一年生研究員が意を決して立ち向かいました。

弘前大学で動物生態学を研究しているムラノ先生からネズミが使っている巣穴の見分け方などの教えを受け、リンゴを餌にワナを仕掛けて捕獲が可能か、所内数カ所のほ場で試しました。結果、約1ヶ月間で、1日あたり1〜数匹ずつ、合計で50匹捕獲できました。こんなに捕まるとは、正直驚きです。
(品種開発部 大橋 試験担当)。

昨年秋以降の話題として、献上りんごやりんご品評会もあったのですが、毎年同じ様な内容になっていると感じ、少し趣向の違った材料を探していました。しかし調整が進まずに発行が遅れてしまいました。

次号はちようど100号となりますので、年度を改めて充実した内容をお届けしたいと考えています。ただ、新しい材料を探すが難しく、錆び付いた頭を悩ませていきます。(YH)

編集後記



献上りんご箱詰
12月7日